

1955年創立

70th
Anniversary

躍進の 70 年

剣道連盟の歴史と未来

越谷市剣道連盟 創立70周年記念誌

躍進の70年

剣道連盟の歴史と未来

はじめに

- 01 新たな歴史を築いていく 剣道連盟会長 石川雅久
- 02 伝統をしっかりと引き継いでいく 記念行事実行委員会委員長 小川俊文
- 03 裾野は広く、頂はより高く 剣道連盟顧問 中野茂

剣道を極める 連盟指導顧問に聞く

- 05 剣道に思いを寄せて 剣道教士八段 今濱雄二
- 06 100周年を目指して 剣道教士八段 五十嵐孝則
- 07 サラリーマン剣士の剣道修行 剣道教士八段 永松教孝

剣道連盟の歴史と未来

- 14 剣道の文化と価値観 剣道連盟代表 矢部勇介
- 15 越谷市剣道連盟未来への展望 剣道連盟名誉会長 高田新次
- 16 活躍する若手剣士
- 19 指導者に聞く
- 24 いきいき 女性剣士
- 28 剣道具の歴史
- 30 居合道紹介

剣道連盟の取組み

- 32 年間行事
- 33 創立70周年記念事業
- 35 大会紹介
- 39 稽古会
- 40 級審査

剣道をやりたいと思ったら(加盟団体紹介)

- 42 加盟団体
- 46 高等学校
- 47 中学校
- 49 越谷市剣道連盟ホームページ紹介

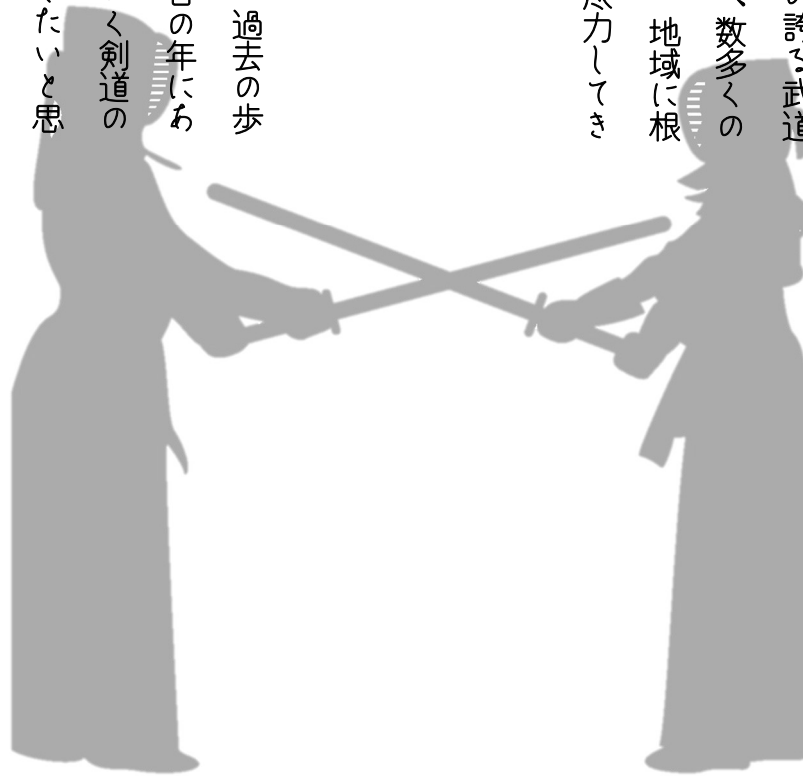
結びに

- 50 70周年記念事業を剣道文化伝承の一助に
記念行事実行委員会副委員長 高瀬英治
- 51 編集後記

当剣道連盟は、本年、創立70周年という大きな節目を迎えました。剣道は、礼に始まり礼に終わる精神を育み、人としての成長や社会性を養う日本の誇る武道文化です。70年の歴史の中で、数多くの指導者が、その志を受け継ぎ、地域に根ざした活動と後進の育成に尽力してきました。

はじめに

連盟創立70周年記念誌では、過去の歩みを振り返り、記念すべき節目の年にあたり、次の世代へとつなげていく剣道の心とかたちを記録として残したいと思っています。伝統の重みを胸に刻みつつ、新たな時代にふさわしい剣道の姿を模索し、より一層の発展につながることを望んでいます。



きこう 連盟創立70周年記念品の揮毫について



剣道の指導という意味は、教授や伝授のように上から与える教育法ではなく、側面から効果的に助言によって学習者が、自ら「生み出す」教育と解されている。

剣道は、昔から師が学習者に対してあらゆる場面において、適切な刺激を与えて、自得開眼を主眼としているので、指導の意味を最もよく達成しているものと思う。

以上のことから「自得開眼」を選定しました。

参考資料 中野八十二 東京教育大学(現筑波大学) 名誉教授、日体大教授

越谷市剣道連盟 顧問 中野茂

中野茂氏／元越谷市教育長。越谷市体育協会会長(令和7年度より越谷市スポーツ協会)。父は当剣道連盟初代会長中野實氏で、同氏は当連盟の創生期の事務局を担った。



越谷市剣道連盟
会長 石川 雅 久

新たな歴史を築いていく

越谷市剣道連盟創立70周年おめでとうございます。

この度、高田新次会長の後、越谷市剣道連盟会長に就任いたしました石川雅久です。連盟創立70周年という記念すべき年に、このような重責を担うこととなり、身の引き締まる思いです。

私は、小学校4年生から剣道を始め、今日まで連盟を発展させてくださった先生方、諸先輩方のお陰で剣道を続けることができました。これまでの事務局長としての経験を活かし、会員の皆様と共に、連盟の更なる発展に尽力したいと考えております。

越谷市剣道連盟は、埼玉県剣道連盟のAランク加盟団体であり、会員数も多い団体です。幼児から高齢者の幅広い年代の方々、その中で剣道の道を極めた方から健康のために稽古に励む方まで、様々な会員が剣道の魅力を感じられ、それぞれの目標に向かって稽古を楽しんでいます。

このような素晴らしい剣道を、会員の皆様一人一人のご協力によって、更に発展させていきたいと考えております。

しかしながら、少子高齢化や多様なスポーツの普及など、剣道を取り巻く環境は決して楽観視できるものではありません。会員の皆様には、連盟の活動への積極的な参加、剣道の普及活動へのご協力など、様々な面でご支援いただければ幸いです。

皆様と共に、越谷市剣道連盟の新たな歴史を築いていけるよう、精一杯努力してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

伝統をしっかり引き継いでいく



越谷市剣道連盟創立70周年
記念行事実行委員会
委員長 小川 俊 文

越谷市剣道連盟が創立70周年を迎え、記念誌を発刊いたしました。

記念誌部会の尽力のもと「躍進の70年 剣道連盟の歴史と未来」と題して、編集が進められました。創立70周年を祝うとともに、剣道の歴史、文化、そして未来への展望など、様々な企画が掲載されています。このたびの記念誌は、創立50周年記念誌以来の発刊であり、大変意義深いものだと思います。発刊にご協力いただいた諸先生方や関係各位に感謝いたします。

さて、剣道連盟が70周年を迎えるなか、私は60年近く連盟に関わっており、一層感慨深い思いです。剣道連盟の今日があるのは、たくさんの先生方や先輩方が支えてくれた賜であり、これからは我々から後輩にしっかりと引き継いでいくことが大切だと考えます。最近の大会成績を見ますと少年の部が特に優秀で頼もしく思います。

剣道は剣道具を着用し竹刀を用いて一対一で打突しあう運動競技とみられますが、心身を鍛錬し人間形成を目指す武道です。競技として上位を目指しつつ武道として自らを鍛えていく日本の伝統文化です。特色として老若男女問わず同じ空間で相手を尊重しながら稽古ができます。体格や体力が劣っていても高齢になっても工夫次第で上達することが出来ると言われています。この素晴らしい剣道が受け継がれ、連盟も発展していくことを願っています。

結びに、記念誌部会のみならず大会部会、祝賀会部会、記念品部会、事務局、役員の方々等剣道連盟70周年にかかわったすべての方々に感謝申し上げ、あいさついたします。

裾野は広く、頂きはより高く



越谷市剣道連盟
顧問 中 野 茂

越谷市剣道連盟が創立70周年を迎えることに、心からお慶びを申し上げます。

「裾野は広く、頂きはより高く」これは埼玉県剣道連盟のスローガンです。剣道愛好者をひとりでも多く誕生させたいという願いです。本市剣連では「底辺の拡大」を合ことばに励んできましたが、意図するところは同じです。

終戦後、昭和26年の日米講話条約（サンフランシスコ条約）の締結されるまで「武道」は全面禁止されました。

本市に剣道愛好者の層が厚いのは、戦前より地域に根ざしたこの武道が錬心館山口道場（山口亮一館長）や出羽、明信館道場（高橋忠作先生）他に越谷警察署長（関口馬二郎先生）、教育関係者（秋山長作・鈴木重次・中野實・豊田正長・鋪野猷爾・大塚史郎各先生）へと継承されたからです。

戦後、剣道は日本撓競技連盟（笹森順造会長）から出発しました。本市では山口亮一先生、錬心館道場からスタートした越谷市剣道連盟は道場が手狭となり、近くの越ヶ谷小学校講堂へ移り益々愛好者（会員）が増えていったことは、ご承知のとおりであります。

一方、昭和30年代から40年代の地下鉄の相互乗入れや武蔵野線全線開通による東京のベッドタウン化により人口が急増し、市内中学校・高等学校への剣道部の創立と剣道の各種審査会・大会が励みとなり、剣道愛好者も急増し、併せて「越谷に武道場」の建設要請が高まり、1987年（昭和62年）総合体育館内に念願の武道場が誕生となったわけです。

普段、何気なく稽古している武道場は、既に37年を経っていますが、先人の方々の努力の賜であります。

令和4年6月現在、埼玉県剣道連盟に登録されている本市の4段以上の会員は271名であり、特に女性剣道の普及発展と小学生の剣道指導の強化稽古会の継続が際だっています。

結びに、越谷市剣道連盟創立70周年を契機に剣道の歴史・文化を継承し、未来への展望を持って、スポーツ振興と市民の健康増進に御尽力くださることをお願い申し上げ、益々のご発展と関係各位のご活躍をご祈念申し上げあいさついたします。

剣道連盟創立70周年記念

剣道を極める

剣道連盟 指導道顧問に聞く

剣道連盟創立70周年を迎え、私たちはこの特別な節目を記念して、指導顧問である八段の先生から「剣道を極める」というテーマで貴重な寄稿をいただきました。剣道の道を極めるための心得や、長年の経験から得た洞察を共有していただきます。この寄稿を通じて、剣道の真髄に触れ、さらなる精進の道を歩んでいただければ幸いです。

剣道に思いを寄せて



剣道連盟指導顧問

剣道教士八段 今 濱 雄 二

越谷市剣道連盟が創立70周年を迎えられましたことは誠に喜ばしく、心からお祝いを申し上げます。

さて、日本の伝統文化のひとつである剣道は、稽古を続けることによって、心身を鍛錬し人間形成を目指す武道であると言われていきます。

先般の世界大会でも感じたように、その精神性に魅力を感じる外国の方も大変多くなってきております。



常に節度ある態度を堅持する「残心」や、常に相手を尊重する「礼節」は、多くの外国の方に称賛されています。私はめまぐるしく変化する時代の中で、精神を鍛錬する剣道の姿勢は、国や性別を問わず、現代社会でますます必要性が高まっているように感じています。

しかし、国内においては、次世代を担う子どもたちが剣道を選択せず、剣道人口の減少が起きていて、非常に残念です。

剣道の魅力は、老若男女を問わず、誰とでも、いつでも、どこに行っても真剣に稽古ができることです。

「初太刀一本、千本の価値」。私の初太刀は、面と決めています。相手と対峙しながらも、己の内なる心と向き合う時間。ある時には、大先輩と、妻と、息子と、孫と。それぞれに違った剣風で、真剣勝負をする。それがまたおもしろいのです。

私がただ一つ願うのは、試合や審査に向かうとき、着飾った自分を見せるのではなく、ありのままの「自然体」の姿を見せられる人間でいてください。そのためには、日々の稽古のときからの着装、立ち姿、礼法、^{そんきよ}蹲踞から始まる剣道をおろそかにしないでほしいのです。なぜならばそれが己の剣道であり、人となりだからです。たびたび立ち止まって振り返ることも大切です。

結びに、これまで活動を支えてこられた歴代指導者の皆様、会員の皆様方に感謝申し上げますとともに、70年という節目を契機として、越谷市剣道連盟の益々のご発展を祈念します。

100周年を目指して共に精進を



剣道連盟指導顧問
剣道教士八段 五十嵐 孝 則

越谷市剣道連盟創立70周年おめでとうございます。会員の皆様と共に素晴らしい節目の年を迎えることが出来たことを大変嬉しく思うとともに心よりお祝いを申し上げます。賛助会員として越谷市剣道連盟に加えていただいてから10年目になります。越谷市剣道連盟の印象は、「基本・礼法・生涯剣道を大切にしている素晴らしい組織だな」というものです。私が参加させていただいている越谷市総合体育館剣道場では、早朝から「おはようございます」「お願いします」という子どもたちの元気な声が響き、道場の半面を使用している大人の稽古場では「ヤー」「トー」という掛け声とともに剣道形が始まっています。



その後は基本を重点とした打ち込み等が行われ相互稽古・指導稽古等気合のこもった稽古が行われています。5～6歳の子どもから80歳代の大人まで、まさに生涯剣道が実践されています。

今後も人間形成の場として越谷市剣道連盟が益々発展していくことを祈念するとともに100周年を目指して共に精進を重ねて参りましょう。



サラリーマン剣士の剣道修行



剣道連盟指顧問

剣道教士八段 永松 教孝

越谷市剣道連盟創立70周年記念、誠にありがとうございます。70年の約半分の期間、連盟役員として携わった者としてこの日を迎えることは慶賀の至りです。

また、長きに亘り連盟の発展継続に尽力いただきました諸先生、先輩他に心より敬意を表しますと共に当記念誌の発刊に携わった皆様に御礼を申し上げます。

この度、表題の寄稿依頼を受け、迷うところもありましたが、当方のようなごく普通のサラリーマン剣士の剣道への取り組み等が八段等高段位を目指す方々へのお役に立てるならと引き受けさせていただきました。

稽古、試合、審査会等に向けての様々な取り組み、在り方、考え方等各方面で悩んでいる方々の琴線に多少なりとも響くことがあれば幸甚に存じます。

現行剣道段位では八段は最高位であり、段審査は確かに難関で、ここ10年間の平均合格率が0.65%であることから考えると合格は至難の業であると思われます。

何年か前の日本経済新聞のコラムに、日本

における公の試験制度で最高難易度の試験は剣道八段審査であろうと掲載されておりました。

特に稽古の機会、稽古量の多くを望めないサラリーマン等が合格するのは更に至難の業かと思います。ですが、合格率は0ではありませんので、合格に向けての方策等を的確に考察実施、精進すること、また、良き師に出会える等の縁と武運を持っているかどうかにかかっていると思われます。

目標をしっかりと定め希望を持ちながら^{こつこつ}的確に精進されれば必ず結果はついてくると思われます。

さて、当方の考え等を少し述べますが、結果的には八段をいただいたからといって内向的には何ら変わったことはありません。八段を最終到達点的に考える方がいるかもしれませんが、当方はあくまでも人生を深めていくための通過点と考えていましたので、大きな喜びがあった訳でも特別な達成感があった訳でもありません。反対にこれを契機に更に自らを修め、剣道理念の意図するところを^{じきよう}自強すべきと気が引き締められる思いが増したしだいです。ただ、周りの見る目は相当変化し、全剣連からの指導も八段は公人なので相応の行動をとるよう指示されましたし、先輩諸氏から人生が変わるとも言われました。敢えて言えば当方が希望していた発言力、発信力が増したようには感じます。

剣道修行の目的は人間形成ですが、八段合格の基準に風格や品位はありますが、人格が形成されているかの基準はありません。あくまでも合格までの修練の積み重ねが人格形成

に沿ったものになっているのであって、人格向上への精進は勿論^{もちろん}ですが、合格には先ずは技能、身体的なところに主眼をおき、行住坐臥^{ぎょうじゅうざが}において品格を高め、結果的に審査員に○をつけてもらえるように取り計らうことが大事であると考えました。

当方が思うには、八段は超一流の職人芸を会得した品格者というイメージでいます。最低でも33年間の剣道修行年限を経て、対戦相手がいるとはいえ、相当レベルの高い職人技を会得し、人としての品位も兼ね備えた者に与えられる勲章的なものと考えます。そして、その職人技を的確に後世に指導継承できると判断される者に免許皆伝を与えるというものではないかと考え修行精進して参りました。

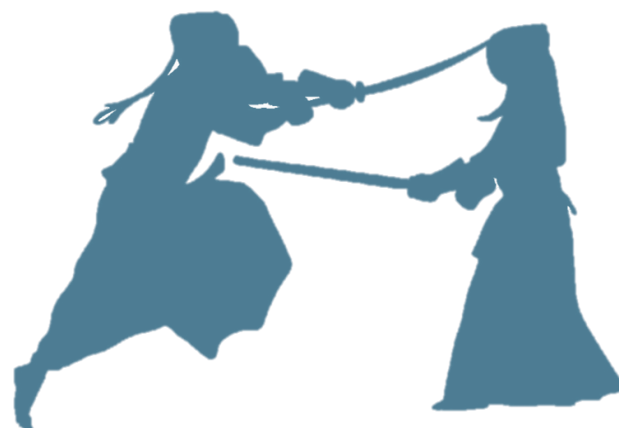
ついては、その職人技を如何に早期に取得するかが合格に近づく道であり、その技を会得するために何をどのように学び、工夫、実践していきつつ、風格、品格を備えていくかにかかっているように思います。

北辰一刀流の千葉周作の教えに、上達の場合に至るに二道あり、理より入るものあり、業より入るものあり、いずれより入るもよしといえども、理より入るものは上達早く、業より入るものは、上達遅し、(中略)

理業は車の両輪のごとし、故に理業兼備の修行、日夜怠慢なければ、十年の修行は、五年にて終わり、上手名人の場合に至るべし。とあります。

サラリーマン等のように稽古量の少ない者は理を主体に効率よく稽古することが必須であり、更に、自らの向上のみに捉われるのではなく、次につながる者への指導を行うことも非常に大事なことかと思われます。

つきましては、当方がこれまで行ってきた、



稽古、試合及び審査会での在り方等を後段に羅列しますので、その中の幾つかでも参考にいただければ、この度の記念誌寄稿の企画にお役に立てると思料します。

ところで、当方は、運動神経抜群等で恵まれた環境下の剣道エリートであったかというと然にあらずで、小学校時は長距離が苦手な体育は3でした。

生い立ちを少し述べます。現、大分県由布市庄内町で明治生まれの村議の父、大正生まれの母の三姉四男末っ子で生を受け、父は3歳になったばかりで亡くなり、母と年の離れた姉・兄に育てられました。母は女学校を首席卒業者のため、教育熱心で運動等にはほぼ興味なく、頭脳明晰で文化系統好みの教育方針のため、剣道をやると言ったらそんな野蛮なものは？ という考え方で、母は80代で亡くなるまで剣道実践姿を見ることなく他界しました。政治家か教育者にしかかったようです。

小さい頃はチャンバラ遊びが好きでしたが、姉から茶道、華道、書道、裁縫等を教わり、現在その方面での師範となっているのは姉の影響かも。中学卒業までハードな運動は禁止で、ようやく高校で創立2年目の剣道部に入部。

国士館出の若手先生で、入部後4か月はほぼ摺り足のみ、その後先生他の体当たり等で腰痛となり、その後は生徒会活動他に没頭し、剣道に主眼をおいてやるという状態ではありませんでした。実態は生徒会や母一人で頑張る家業の農業が忙しく、時間の許す限りは農業、家畜、林業の手伝いが大半で、竹刀の振数より、薪割りで^{まさかり}鉋を振った数の方が多かったのではと記憶しています。

18歳で上京、その後大学卒業の年の22歳で職場（現UR都市機構〈近場では越谷レイクタウンを総合企画・イオン誘致等〉）の剣道部入部再開、24歳から日本武道館内の武道専門の武道学園（当初は週6日）に入学し10数年間、範士九段・八段の^{そうそう}錚々たる10数名の先生に指導をいただきました。

定刻の2時間の授業は難しく、30分程でも稽古して、職場に戻り残業し、終電で帰るという日々が続きました。現在のようにワークライフバランス等は無く、人目を忍び稽古、昼休みは会議室や踊り場で短く切った木刀での素振り、通勤時の呼吸法、満員電車での下半身の強化等^{ぎょうじゅうざが}行住坐臥が稽古でした。

特に30代後半から50代始めまで、URの本社勤務で国会对応が多く、深夜0時まで帰れるのは週1回のみ、その1回は日程調整し地元の子どもの稽古時間を捻出し、土日も剣道一辺倒な日々でした。今思うと、よく倒れなかったと思います。32歳で東京から越谷に転居、鋪野猷爾先生始め、越谷市剣道連盟、埼玉県剣道連盟他の多くの先生方のご指導をいただきました。心から感謝申し上げます。

当方は縁と運に恵まれた人間だと思います。その時々により良き師、先輩、同輩に恵まれる武運をいただきました。剣技の実力が相当あっ

ても縁と運に恵まれない方は、なかなか昇段も果たせません。

不器用でも^{つつ}兀々と努力精進したことが良縁良運に恵まれたのだと感謝します。このご恩を少しでも後輩等に還元していかなければならないと感じております。^{せんえつ}僭越ですが当方が実践してきた稽古等への取組み及び昇段へのコツ？的なものを幾つか列挙しますのでご参考にしてください。

先ずは、

1 日常的稽古方法等

前述のとおり、一介のサラリーマンですので、稽古時間が限られます。そこで、日常時効果的と判断して実践したのは、

- ① 通勤電車内で中段の構えで立ち、そのまま打てる状態を維持、とくに長時間左足かかとをやや浮かせる。また、大腰筋を鍛える立ち方、座っても同様に大腰筋を鍛えました。
- ② 左足の蹴りを意識した歩き方、自転車は左足のみでのこぎ方。
- ③ 常時重い鞆で、背筋腕等の筋力アップ。
- ④ 仕事中でも極力椅子に背中をつけない正しい姿勢、30秒以上息を吐きだす呼吸法練習。
- ⑤ 会議等で足が伸ばせるときは腹筋を鍛えつつ、膝痛防止の練習。
- ⑥ 18歳から続ける座禅を深夜帰宅の際もほんの数10分でも実施。
- ⑦ 通勤時剣道日誌等を常に読み返し生活の一部とし、通勤読書も実施、40年来の愛読書は、小川忠太郎、安岡正篤、森信三、中村天風、内田樹、岩立三郎先生他剣道の著名人の先生方の本、その他剣道月刊誌、月刊致知、各種宗教、禅、呼吸法の本等。
- ⑧ 自らの審査及び合格者等の動画を常に見て検証。

2 審査員の眼を考慮した稽古方法等

審査会後に相手の方との勝負のみの会話が語られますが、結果的には審査員の先生が○を付けるかどうか合否ですので、先生方の着眼点を意識して稽古、また、審査に臨みました。

一般的に実践されている事項だとは思いますが、審査会場では立会が始まる前から先生方に着目されているという意識でおり、紐を湿らせての着装、^{つば}鍔を付けた予備の竹刀を近場に置く。

また、審査開始の際は

- ①背筋の伸びた左腰の定まった姿勢、全身からの気迫、気位。
- ②立礼から^{そんきょ}蹲踞に至る歩き方、歩幅、気の在り方、立ち方。
- ③出すタイミングを考慮した発声（初発はめまいがするくらい）。
- ④左手が中心から動かない、握り替えを行わない、攻め気の構え。
- ⑤適度な間合、絶対近間にならない、技を出すまでの間合。
- ⑥十分な溜め、呼吸で相手を計る、絶対に下がない。
- ⑦強い攻め気、初太刀が全てという気で打つ。
- ⑧打ち出すべき、また、打ちを出すべきでないタイミング。
- ⑨正中線を主体とした攻め、打ち、相手より10歳程若いスピード。
- ⑩溜める相手とは数本、拙速の相手には上手で使う。スピード面は切り落とす。
- ⑪極力引き出しての技、出頭面、相小手面、すり上げ技、応じ技も適宜。
- ⑫抜き胴は、引き出せなければ打てても減点材料と心得る。



⑬身体を中心に入れて打ち切る、できるだけ打ち抜ける。

⑭有効打を1本以上、非有効打でも適度な間合での残心。

⑮審査会場を退出するまでの気の配り方。

着眼点のずれもあるかと思いますが、審査員の先生方が八段に求めるのは、「正しい剣道、正しく指導できる者」であると聞いておりましたので心がけるようにしました。

なお、審査会での在り方について当方が思うことを分かり易く図にしてみました。

7～8年前から講習会等で指導していますが、要は相手を打ったとか打たれた等は審査員から見れば半分の要素（図右半分）でしかないのではないかと考えております。

まずは、自らが対処できる要素（図左半分）のところをしっかりと着実に実行できるようにしておくことが大事です。本来この左半分の要素が出来てれば八段二次に行ける可能性が大だと思います。

平素の稽古で、左半分を意識した稽古を心がけ審査会に臨み、左半分の要素は完璧にし、

相手との攻防を実践、もし、右半分の要素で審査相手が優れていれば素直に敬意を表し、また、次回に向け更に修行して行けばよい訳です。

3 欠点等の修復

(姿勢、構えの悪い方は八段合格不可！)

自らの欠点・悪いといわれる所を、1か所ずつ時間をかけて修復するように心がけてきました。

八段挑戦2年目に二次に行き、一次でもあと一步の評価が多かったのも、自分にもチャンスがあると思い、自らの欠点等を一点ずつ修復していきました。

まず、左足がひどい^{しゅもく}撞木でしたので、これを克服するのに3～4年、左手の納まりにも2～3年、頭の位置、右手の握り、左腰の溜め、上半身先打ち、発声方法等には各1年程度かかりました。

今でも少し気を緩めると悪い癖が出てきますので常に戒めております。

4 合格までの稽古内容及び心がけたこと

平素の稽古内容や稽古に取り組む心がけ等を述べます。

①道場では、子どもたちに姿勢正しく真っ直ぐな面を心がけるよう指導していますので、自らも先をかけた面を中心に稽古、小中学生相手でも、気、発声は本気で行いました。

②相手との合気を心がけ、^{へそ}臍、左腰からの攻め、上半身は後からの打ちを心がけました。

③相手の方を尊重し、相手の方が打ちや技を出しやすい環境を作り、技稽古が沢山できるような稽古を行いました。(剣先を下げたり間合いを切ったりせず、相手が打って来やす

いように計らう)

④極力出稽古を増やしました。多くの範士曰く、同じ相手と稽古しても上達は望めない、審査会ではどんな相手とやるかはわからない、そのためには出稽古が必要と。

⑤出稽古では、年下や後からの昇段者でも極力元に立たず下手から懸かる、良い稽古をする者を選んで懸かりました。

⑥打たれることを^{おそ}懼れず正剣を心がける、打たれたときは潔く振る舞う、軟剣の者の時ほど心を練る。

⑦稽古の際は、可能な限り、足を継がない一本打ちの面を中心にして、八段に懸かるときは面だけの稽古としました。

⑧できる限り八段、また、高段の先生に率先して懸かり、稽古をいただいた後は、先生方から必ず指導、忠告等をいただくように努め、必ず剣道日誌に記載し、反復練習しました。尊敬する〇範士は稽古後の挨拶で本気で聞く者以外には指導はしないと言われた！ 本気度の無いのに指導しても何の役にもたたないと、よって〇範士は、ほとんど助言しませんでした。本気度でしたが当方はいただきました。

⑨第二道場をこよなく愛し、段位にこだわらず、教えや指摘を聞くようにし、その言葉等を忘れないうちに必ずメモするようにしました。メモしていれば何年経っても思い出せます。

⑩講習会等にも極力参加し、剣道形の理合を呼吸に、刀法、^{しのぎ}鎗を竹刀に活かすようにしました。

⑪二次に何回も行ってもあくまでも二次と思い修行しました。K範士曰く、一次審査では適宜〇を付けざるを得ないので、少し元気の良いのには〇を付けるがどうせ二次で落ちるレベルだ。本当に二次にも受かるようなのは、

ほとんどいないよ！ 二次合格者は何かを持っている！ と申しておりました。

⑫なお、当方の素振りですが、大と小の二通りを実践。素振りの振り幅、一般的には90度から120度くらいの振り幅が多いと思いますが、私はお尻に付けてから臍^{へそ}の高さまで振る、270度程度の素振りを、早素振りのときも同様に振っています。反対に据え付けの固定面等を打つ場合は、振り幅を極力小さくし、20から30度くらいの幅で、90度以上の振り幅と同様の強度、茶巾絞りで手の内の冴えた打ちができるようにしています。

八段までの合格難易度表(初段を階段1段の20cmの高さと想定して表示)

私案ですが、段審査の難易度を表にしてみました。昔から地震の震度計の数値がなかなか理解できず、例えば震度1～7の差がどの

くらいあるのか理解できませんでした。よって剣道も同様に、初段から8段までの差を階段の段数に例えたらどんなだろう、と考えて20年程前から数字で表すことを考え、計算してきました。

初段を階段1段の20cmの高さと想定して計算すると、四段は約180cm、六段はマンション5階程、八段は高度約9,000m超になりました。ご参考にいただければ幸いです。

令和5年度以前約10年間の昇段平均合格率から逆算してそれを高さで表示しています。

埼剣連(初～5段)及び全剣連(6～8段)の公表数値を参考に算出したので、都道府県で若干の誤差はあるかと思いますが、総合的に見て貰えれば幸甚です。

なお、計算式の誤りや修正指摘は当方まで一報願います。

初段から八段までの合格率から推測した基礎表

	級	初段	2 段	3 段	4 段	5 段	6 段	7 段	8 段
合格率	1 と仮定	0.8750	0.8540	0.7630	0.3910	0.3170	0.2410	0.1940	0.0065
%表示	100%	87.5%	85.4%	76.3%	39.1%	31.7%	24.1%	19.4%	0.65%
難易度数	1	1.14	1.34	1.75	4.45	14.15	58.72	302.66	46563.05
階段表示 1 段を 20 cm想定	0	1 段	2 段	4 段	9 段	24 段	83 段	386 段	46,949 段
	0	※20 cm	約 40 cm	約 80 cm	約 1m 80 cm	約 4.8m	約 17m	約 80m	約 9400m
具体の高さ 目安	平地	階段 1 段目	階段 2 段目	テーブル の高さ	扉の高さ	戸建て 2 階天井裏 高	マンショ ン 5 階の 高さ	マンショ ン 25 階 の高さ	9400 m 飛 行機が飛 ぶ高さ

(注)合格率は、①級審査は100%合格と想定

◎初段～5段は埼剣連公表値平成26年度～令和4年度まで9年間平均値

③6段～8段は全剣連公表値平成26年度～令和5年度まで10年間平均値



剣道連盟の歴史と未来

越谷地区は、古くから剣道の盛んな土地柄で、江戸時代の剣客神道無念流戸賀崎熊太郎の高弟中村万五郎生誕の地でもあります。

戦前・戦中は、大地主や剣道愛好家の屋敷内に道場を持ち、地域の愛好者や青少年に稽古をつけていたと伝えられています。

戦後は多くの道場は廃止されたようですが、鍊心館山口道場(館長山口亮一初代埼剣連副会長)は高名な柴田万作先生、堀口清先生らを招き、熱心に稽古を続けていたといえます。

当連盟は、昭和28年、埼剣連支部として発足しました。現在は道場、クラブ、剣友会等20有余の団体を擁し活動しています。

ここでは、剣道の歴史や文化について諸先生の寄稿を掲載するとともに、各分野の剣士の活躍や指導者の姿を紹介し、連盟の未来を志向していきます。

剣道の文化と価値観



越谷市剣道連盟
代表 矢部 勇介

越谷市体育協会の加盟団体として越谷市剣道連盟は、70年の永きにわたり剣道の普及と発展に努めるとともに、各加盟団体のそれぞれが剣道を通して青少年の健全育成に努めてきました。この功労と功績は誠に多大であると考えています。

剣道は日本刀の発明を源とし、人間教育の手段として今日まで発展してきた日本の伝統文化です。スポーツは楽しみや健康を享受するものとして位置づけられていますが、剣道はその発生からして「人がよりよく生きていくための指針」として捉えられ、優れた全人教育の一つの手段として、今日まで継承され発展してきました。「伝統文化の尊重」が叫ばれる今日、剣道は技の習得を通して心と体を鍛え育む教育的な効果を期待されつつ、老若男女を問わず幅広く愛好され、今もなお発展しています。

剣道の大きな特徴は、何歳からでも始めることができ、年齢や錬度に応じた課題もあり、生涯にわたって取り組むことができることです。

日々剣道の稽古に取り組んでいる方々は、試合に挑戦している方もいれば、健康の保持増進のために続けている方もいますが、昇段審査を大きな目標としている方が大多数を占めていると思います。

このような中、令和6年（2024）8月11日の愛知での剣道八段審査会の2日目は、受審者445名合格者12名合格率2.7%でした。その中に81歳の愛知県の受審者が超最難関の剣道八段審査に見事合格されました。まさに、生涯剣道の実践者であると大きな感動を覚えました。いつまでも剣道八段を追い求め続ける姿は、剣道の一つの価値観です。

剣道は、武道として例えば、自分自身を鍛錬し、自己を律することによって「克己心」が身に付きます。宮本武蔵は『五輪書』の中で「千日の稽古を鍛とし、万日の稽古を練とす」と述べ、3年間の稽古を鍛といい30年間の稽古を練と呼んでいます。鍛錬とは剣の道を求めて稽古を続けることを言ったものと考えています。剣道は相手がいなければ成立しません。向かい合っている相手を尊重して、お互いに高め合うことができます。さらに「我慢」「頑張り」を積み重ねていくと、身も心も爽やかさと出会えることがあります。それは気剣体の一致した有効打突（一本）が見事に決まる瞬間です。打った人は、打たれた人を思いやる「惻隱の情」（そくいんのじょう）が身に付きます。打たれた人も見ている人でさえも感動を覚えるものです。まさに「見事な一本の体験」は、剣道の魅力の一つです。剣道の伝統的な考え方、その一つに気持ちを込めて礼を行うことで、相手を尊重し感謝する態度を学ぶことがあります。礼の旧字体は豊かさを示す「禮」と書きます。つまり礼法とは、周囲の人や環境への敬意や感謝の気持ちを、決められた作法で表すことです。剣道は「礼に始まり、礼をもって行い、礼に終わる」ことを実践することにより、心豊かな人を目指せます。

越谷市剣道連盟の 未来への展望



越谷市剣道連盟
名誉会長 高田 新次

越谷市剣道連盟が創立70周年を迎えることとなりました。

関係各位の皆様のご支援と、ご協力の賜と心から敬意を表し感謝申し上げます。

私は日頃から、多くの人々に剣道の良さを知っていただきたい、そして剣道を始めたら、長く継続してもらいたいと思い稽古に励んでいます。

越谷市剣道連盟は会員登録数が多く埼玉県剣道連盟でもAランクに登録されており、埼玉県大会少年の部団体戦では平成30年から3連覇を始め個人団体ともに常に上位の成績を残しています。加盟団体も交流試合などに積極的に参加をして上位入賞の報告を受けて心強く、日々のご努力に感謝申し上げます。

また、越谷出身の選手が全国大会レベルの大会等で活躍して優勝、上位入賞という素晴らしい成績を残しています、これもひとえに会員の皆様が切磋琢磨して稽古に励み精進されている賜と敬意を表します。

ここ数年、少子化の波が押し寄せて来ていると感じています。小学生大会の参加者数、級審査会の受験者数が残念ですが減少の傾向にあり、市内中学校、高校の部活動においても部員数が減少して団体チームが組めない学校もあります。中学校によると生徒数の減少から部活動の数に制限がかかり、無くなる部活動もでてきていると聞きます。

現在、多くの子どもが連盟主催錬成稽古に来られるように、夏期錬成会、冬期錬成会の日程を土曜・日曜に変更、時間を一般・高校、小学生、中学生と区分して稽古を行っています。

また、中・高生を対象とした冬期剣道大会では全員が試合できるように合同チームによる参加を認め、加盟団体チーム、隣接する高校に参加を呼びかけて開催しています、このようにその時に合った対応も必要だと考えます。

これからの剣道連盟の少子化対策として、未経験者対象の剣道教室の開催などを進めていきたいと考えています。

また、加盟団体の中には、会員募集の要綱を広報紙、コンビニエンスストアや食料品店にお願いして会員募集を募っている団体もあり、剣道人口の増員にご尽力いただき大変有難く頼もしく感じています。

70周年を機会に初心にかえり、諸先生方が築いてこられたよき伝統を継承して心技体の涵養に励み、伝統文化としての剣道を次世代に正しく伝え、剣道理念に基いて社会に役立つ人間づくりを目標として取り組んで、越谷市剣道連盟は加盟団体の要として剣道の発展を目指し、更なる努力精進をいたします。

初代会長中野實先生、二代豊田正長先生、三代鋪野猷爾先生、四代大塚史郎先生、五代矢部勇介先生、の歴代会長を始め役員、加盟団体のご協力、ご尽力により発展してきました当連盟をさらに発展させていく所存であります。

最後になりましたが、日頃より温かいご支援ご協力を賜りました皆様方に感謝を申し上げますとともに、今後ご指導ご鞭撻をいただきますよう心からお願い申し上げます。

インタビュー 活躍する若手剣士

井上賢生(桜南剣友会)
小川真英(越谷剣道クラブ)
石川雅(清浄院剣道教室)

この10年間副会長・事務局長として携わってきた中で、連盟に所属し、活躍してくれた選手にこれまでを振り返ってもらいました。井上賢生選手(桜南剣友会)・小川真英選手(越谷剣道クラブ)・石川雅選手(清浄院剣道教室)、この3選手は、小学生時代からそれぞれの越谷市剣道連盟の加盟団体に所属し、小学校から大学・社会人として現在も剣道を続けている方々です。この10年間、連盟所属団体出身者で、全国中学校大会・インターハイなどの全国大会に出場した選手で、現在も活躍している選手を多く輩出していることも付け加えていただきます。

聞き手 副会長 石川 雅 久(当時)

「剣道にかけてきた情熱と思い」は？

井上選手

私は剣道を通して人生が豊かになったと感じています。小学校1年生から剣道を始め現在に至るまで辛いことや楽しいことをたくさん経験しました。特に高校では剣道を頑張りたいという思いから剣道の強豪校に進学しました。最初は練習についていくことに精一杯で、試合でも結果が残せず辛い思いをしました。しかし、一生懸命練習に取り組み少しずつ結果を残すことができたときに剣道がとても楽しいものだと思うようになりました。また、親元を離れての寮生活を通して両親のありがたみを知り、剣道の技術だけでなく人間としても成長でき、学生生活が充実したものになりました。こういった経験から私は剣道の素晴らしさを実感しました。

小川選手

私は4歳から父の影響で剣道をはじめました。現在は大学4年生となり、17年間剣道を続けております。私は剣道が嫌いでした。しかし、少しずつ結果につながることに喜び

を感じていました。取り組む中で剣道の様々な魅力に気づきました。自分がどういう剣道を目指したいか、どういう技を出し、いかに美しく打てるか、自分の体だからこそ、自分だからこそできる剣道は何か、剣道に対する探究心が芽生え、そこに楽しさを感じました。また剣道を通して人としてどうあるべきか、どういう人間性をつくっていきたいか、つくるべきか、そういった今後の自分を考えることができています。剣道は「人間形成の道」と言われていますが、まさにそうだと実感させられています。また、様々な先生方、友人に出会ったからこそ今の自分がいます。また、今後様々な方と出会いながら自分の剣道の美学を追い求める人間性の高い剣士になりたいです。そして生涯をかけて日本一を個人でもとれるように挑戦し、つかみ取りたいです。

石川選手

剣道に関しては、ひたすら勝ちたいという思い一つでした。ただ、剣道を始めた当初は、きつい練習に嫌気がさして、何度も練習を休んだり、辞めたいと考えましたが、試合で負けたときの悔しさが忘れられず、ひたすら練習



▲全日本都道府県少年剣道大会に出場したときの写真(石川雅選手)



▲インカレで優勝したときの写真(右 小川真英選手)



▲大学のときの写真(井上賢生選手)

をしていました。気づけば試合に少しずつ勝てるようになり、そこから考えも変わっていききました。ただ嫌々やるのではなく、勝つためにどうすればよいかを考え、勝ちたい一心でひたすら練習をしました。特に中学・高校の際は本当に勝ちたい一心で満足いくまで練習をして、負けたら鍛錬が足りなかったと、今まで以上に練習する、の繰り返しだったと思います。それぐらい剣道に関しては勝ちにこだわっていました。結果的に達成できた目標、できなかった目標はありましたが、剣道を通して礼儀作法や勝負の難しさ、仲間の大切さを学ぶことができました。

3人は、小学生の時から連盟の強化選手のメンバーとして連盟代表、中学・高校・大学でも活躍し全国大会への出場も果たし、現在でのそれぞれの場所で活躍しています。

次に「どんな工夫を日々の稽古に取り入れてきたか」ということを聞いてみました。

井上選手

私は稽古で早く動くこと、大きく身体を使うこと、強く打突することを意識しています。特に切り返しや打ち込み稽古では意識的に運動量を増やして、本番で無心で打突できるようになることを目指しています。相面や相小手面、返し胴を狙うときに打突の機会を待つ

のではなく相手よりも先に打突の体勢を整えて迎え撃てるよう早く動くことを心がけています。大きく動くことで運動量を増やし、試合で疲れにくい身体を作ることができます。強く打突しようとすることで竹刀の振りが早くなり、打突時の音で審判に打突をアピールすることができます。この3つを意識して日々の稽古に取り組んでいます。

小川選手

私は、質は量を上回ると考えています。もちろん質高く量こなすのが一番であることは間違いないです。しかし、現状は時間が限られており、量を多くすることが難しいこともあります。また、間違った方法で量をやっていても身につけるべきではない部分が磨かれ、本当の意味としては無いに近いです。正しい方法でその中でより良くするための改善を行い、ひたすら繰り返すことが重要と考えています。私は、頭で覚えることより体で覚えることに取り組みました。その中でも考え方はとても重要だと思っています。面を打ちたいから足をつくるのではなく、面を打てる足づくりができていれば面は打てるという考え方です。しかし、ここをおろそかにしてしまうと全てできなくなっていきます。基礎基本を身につけるには、地道なものこそ一つ一つ丁寧にやる必要があると思っています。

上手くいかないときは初心に戻り、すり足や構えなどを原点に戻っています。

石川選手

私自身、考えて工夫するというよりは、誰よりも練習をすることを意識していました。大前提、考えて意味のある練習をすることが大切ですが、私は考えるというよりは、ひたすら練習して体に覚えさせる、というやり方が肌に合っていたのかもしれません。やっていたことはシンプルで、部活動の練習以外に道場での練習や自宅での自主練習、特に体力作りが大切だと思いランニング、というひたすら練習と体力作りに専念していました。それ以外で決めていたのは、試合で負けても「悔しい」「もっと練習すれば良かった」で終わらせずに、そのときの悔しさを糧に今まで以上に練習をすることでした。その努力が試合のとき、辛い気持のときにもうダメかも、となったときに背中を押してくれると私は思っています。

最後に、「出場した思い出の大会」を聞いてみました。

井上選手

一番印象に残っている大会は中学3年時に出場した夏の県大会です。この大会で私は団体戦で初めて全国大会に出場することができました。中学校の同級生は剣道を始めた頃から競い合っていた仲間たちでした。互いに稽古で汗を流し、試合に出て悔しい思いや嬉しい思いをたくさんしてきました。ときには稽古や試合に取り組む姿勢で意見のすれ違いがありましたが、一つの目標に向かってチーム一丸となって取り組んだことによって絆がより一層深まりました。障害を乗り越え、目標を達成することで全国大会へ出場することができたので、とても印象に残っています。

小川選手

私が出場した思い出の大会は初めて日本一を達成することができた大学1年生のときのインカレ団体戦です。私は高校3年生のとき、新型コロナウイルスの影響で大会が全て中止になってしまいました。そのとき試合ができることのありがたさを学びました。それまでは試合に出ることがあたり前でしたが、こうして試合に出られないこともあるということを経験できたいい経験でした。その後、そこで諦めず、今の自分ができることを考えて取り組みました。コロナ禍の影響もあり、無観客だったためか、日本一の達成感はそのときには、イメージしていたものより感じられませんでした。しかし、お祝いの言葉を様々の方がかけてくださり、日本一になった実感をえました。今年で学生の日本一の挑戦は最後になるので、大学初めの年と終わりの年で日本一を取りたいです。そのために今ある時間を大切に悔いのない毎日を過ごし取り組んでいきたいです。

石川選手

全国選抜予選の県大会決勝です。本庄第一との試合で私は次鋒でした。先鋒と次鋒の私は負けてしまい、あと1人負けたらチームは負けという展開から中堅・副将が勝ち、大將が引き分けて同スコアになり、大將同士の代表戦で勝利し優勝しました。正直、諦めかけていた状況での逆転優勝だったので印象的でしたし、もっと強くならなくてはいけないと実感する試合でした。

3人とも、それぞれの舞台で、活躍し、県・全国の大会レベルで好成績を残し、これからも越谷市剣道連盟所属の選手として活躍してくれることを期待しています。

それぞれのスタイルで若き剣士を育む 指導者に聞く

ここでは若手指導者にスポットをあててみました。草深直也先生(桜南剣友会・栄進中出身・中学教諭)、萩原愛子先生(大相模中出身・中学教諭)、松浦平八郎先生(出羽剣友会代表)にお聞きしました。

草深、萩原先生は、栄進中・富士中剣道部顧問のときに、全国中学校剣道大会に個人・団体ともに出場させた指導者、松浦先生は、連盟小学生の強化指導において、連盟小学生を個人・団体を常に上位入賞・優勝に貢献してくれている指導者です。

聞き手 副会長 石川 雅久(当時)



桜南剣友会・栄進中出身で中学校教諭の草深直也さん(剣道六段)



大相模中出身で中学校教諭の萩原愛子さん(剣道五段)



出羽剣友会代表、連盟常任理事の松浦平八郎さん(剣道教士七段)

「剣道にかけてきた情熱と想い」について、
それぞれに聞いてみました。

草深先生

小学校2年生のときに桜南剣友会で剣道を始め、今年で24年がたちました。小学生のころは剣道が本当に辛く、でも楽しかった。あの5年間で今の私をつくっています。簡単に諦めない気持ちやできるまでやり続ける粘り強さ、そして仲間とともに剣道をする楽しさをあれほどまでに感じさせてくれた経験はありません。私に竹刀を握らせてくれた桜南剣友会前会長の田島勇先生や剣道の厳しさと楽しさの両面を教えてくれた佐藤(間所)由香里先生との出会いは、私の人生に大きく影

響を与えました。由香里先生がおっしゃっていた「楽しむときは楽しむ。真剣にやるときは真剣にやる」という言葉は、いつしか私も生徒によく言う言葉となっていました。高校では朝内賢光先生(教士八段)のもと、剣道の本質を教わりました。その中でも「おもて面を攻めて、おもて面を打つ」という朝内先生の教えは剣道だけに通ずるものではなく、様々なことに関して、真っすぐ正々堂々と立ち向かう大切さを教えてくれました。

大学では、初めてレギュラーに入れなかった経験をしました。4年時の関東学生大会までレギュラーに入ることができませんでした。大きな挫折でした。しかし、本剣道部は関東学生大会を勝ち上がり、全日本学生大会の出場



県大会で優勝した時の写真(中央が草深先生)

が決まり、もう一度、選手選考をすることになりました。私は何とかレギュラーの座をつかむことができました。全日本学生大会の開会式で「駒澤大学」と放送でアナウンスされ日本武道館を行進した記憶は、今でも鮮明に残っています。情熱をもって剣道を続けてきたからこそ得られる経験でした。

萩原先生

令和5年度まで、越谷市立富士中学校剣道部で指導していた私は、覚悟を決めて富士中学校剣道部に入部してくれた生徒たちや保護者の方々に、富士中学校剣道部に入ってよかったと思ってもらえるよう、何をすべきか模索しながら毎日指導に取り組んでいました。とにかく「結果で恩返しをしたい」と思い、自分の家族より長い時間を生徒と共に過ごし、寝食を共にして同じ方向を向いて切磋琢磨していましたが、生徒たちの努力と保護者の方々の支えにたくさん助けられ、私の方が「この生徒たちを指導できてよかった」と思わせてもらいました。剣道を通して学ぶこともたくさんありますが、まずは学校生活をきちんと送り、「必要とされる人間」「応援される人

間」になるように、生徒たちには”感謝の気持ちをもつ”という指導を続けてきました。それが「おかげさまで」という想いにつながることを覚え、剣道はもちろんのこと、人間的にも成長した生徒たちは、新たな目標に向かって努力していることを、私は誇りに思います。

松浦先生

私は4歳から剣道を始め、まもなく半世紀を迎えます。これまで運良く素晴らしい先生方と巡り会いご指導をいただきました。今、こうして剣道が続けることができるのも、ご指導をいただいた先生方のお陰と厚く感謝申し上げます。

そんな私ですが、27歳で出場した関東実業団剣道大会の準決勝でアキレス腱を断裂しました。その後、1年で3回同じ箇所のアキレス腱を断裂し現役引退。もう剣道をするのではないだろうと思っていた数年後、当時小学校1年生だった長女が剣道を始めたことが契機となり、剣道を再開しました。剣道再開後、昔のようなスピードで動くことができなかったり、アキレス腱再断裂が頭を過ぎり、



関東中学校剣道大会で3位入賞した時の写真(二段目の左側が萩原先生)

打ち込むことができなくなったことにショックを受けました。しかし、今までの剣道人生の中で、高齢の先生方に稽古をつけていただいたことを思い出し、今自分に足りないものでできるようになる可能性があるものは何かを考えた結論として、氣あたりや間合いの攻防を研究(まだまだ道半ばですが)するようになったところ、これまでよりも剣道が楽しくなり、今までよりも剣道が大好きになりました。

このような思いを共感できる仲間とも巡り会うことができ、その仲間と稽古後に第二道場で酒を酌み交わしながら剣道談義に花を咲かせることが醍醐味になっております。私が剣道を再開したときに指導させていただいた小学生も成人となり、酒を酌み交わすことが一番の幸せな時間です。

次に「指導にあたり大切にしていること」についてお聞きしました。

草深先生

私が一番大切にしていることは「師弟同行」です。どんなに時間がなくても道着袴に着替え、基本打ちから一緒になって稽古をする、

これが私のモットーです。生徒と一対一で向かい合って稽古をすると、周りで見ているときは違った視点で指導ができます。そして実際に指導者が元立ちとして打たれることで打突の威力や竹刀の冴え、真剣さも伝わってきます。以前は、ジャージで竹刀をもち、氣づいたことを指導するというスタイルでした。全体を見渡し、多くの生徒を見ることができるといふ点では効率的です。しかし、一緒になって生徒と汗をかき、剣道を楽しむという点では物足りません。指導をしていると「教えてあげる」という指導者の驕りが生まれます。「先生」と呼ばれるためには、生徒に対するリスペクトと一緒に技能を高め合うという剣道人としての向上心が大事だと思います。とは言っても、仕事で疲れたりすると「今日はいいや」と思って怠けてしまう自分もいます。今後も、生徒ともに汗をかき、一緒になって剣道を心から楽しんでいけたらと思います。

萩原先生

生徒たちにはたくさんの引き出し（思考、戦術、技術など）を持ち合わせるように指導してきました。私が教えることが100%正しい



埼玉県小学生剣道大会で優勝した時の写真(上段の右から4番目が松浦先生)

わけではないと思っていたため、「こんな考えもあるし、こんなやり方もあるよ」ということを教えてきました。ありがたいことに、剣道経験者の保護者さんがたくさんいた富士中学校剣道部では、私の指導を軸にして技能や戦術を広げて指導してくださっていたため、生徒たちの引き出しがどんどん増えていきました。さらに、富士中学校剣道部の生徒は、5箇所の道場所属者がいたため、剣風が定まらない多彩なチームでした。そのため、個に合った剣道スタイルを大切に、個の力を伸ばす型にはめない指導をしてきたつもりです。しかし、先鋒から大将までの「ポジションの役割を果たす」というチームで勝つ力をつけることを徹底してきました。ポジションの役割を果たすために持ち合わせた引き出しから、その場にあった技、動きなどを選び実践する。それが結果として良かったのかはわかりませんが、関東や全国に通用する“強いチーム”になったのは、紛れもなく生徒たちの力です。

松浦先生

私自身幼少のころは、見て覚えろ！ 竹刀

を振って覚えろ！ と指導を受けて参りました。その指導は正しいと思います。剣道が上達するためには反復練習は絶対必要だと思いますが、反復練習前にできる限り、具体的に論理的に説明後、イメージを持ってもらえるように やって見せることを取り入れています。特に切り返しには、こだわりをもって指導しております。

最後に、「指導者として出場した大会の思い出」をお聞きました。

草深先生

全国中学校剣道大会に監督として出場させていただいたのは、今から8年前のことです。当時、私は母校でもある越谷市立栄進中学校に臨時的任用教員として新卒で着任しました。仕事も1年目でよくわからず、部活動も1年目でよくわからず、とにかく我武者羅に取り組んだ1年間でした。当時の栄進中は新人戦で県大会3位になり、夏の県大会では全国大会出場を目指し日々練習に励んでいました。県大会での優勝が決まり、団体の礼を終えて

裏の通路に移動するまで生徒は全く喜ぶ様子はありませんでした。しかし、通路に出た瞬間、生徒は大粒の涙を流していた。「お前ら優勝が決まった瞬間、全然喜ばなかったな」と私が言うと「先生、相手チームもここまで一生懸命に優勝を目指して努力してきたチームです。その思いを考えるとあの場で喜ぶことはできません」。15歳の中学生がそんなにも思慮深く、思いやりに溢れていることに感激しました。県大会優勝は生徒のたゆまぬ努力と保護者の厚いサポート、そして小学生の頃から熱心に指導してくださっていた各道場の先生方、越谷市剣道連盟が小学生に行っている強化練習が実を結んだものだと思います。まさにチーム越谷で掴んだ10年ぶりの全国の舞台でした。当時の中学3年生だった生徒も今年、大学を卒業して、私が全国大会に監督として出場させていただいた年齢と同じになりました。いつかお酒を飲みながら当時の思い出を語りたいと思います。

萩原先生

自分の中学生時代も、たくさんの練成会や大会に参加させていただきましたが、自分が出場していた大会に指導者として参加できたことは感慨深いものがありました。

「勝ったのは生徒のおかげ、負けたのは監督の責任」と中学時代の恩師である松村哲延先生に教えていただいてから、自分の経験不足や勉強不足を痛感し、指導に試行錯誤を重ねてきました。

一番心に残っている大会は、令和5年度学校総合体育大会関東全国大会の県予選です。埼玉県立武道館で行われるため、埼玉県剣道連盟の月例稽古に毎月参加して会場の大きさと床の感触に慣れ、体育館を昼間に借りて整列から選手宣誓の練習をし、試合する場所にコートを作って試合練習をしてコートの広さや光の差し込む向きを確認するなど準備を怠りませんでした。結果的に団体戦で男女とも決勝戦に出場できたのはとてもうれしかった

のですが、監督はこんなにもドキドキして苦しいものなのかと思いました。さらに、1年生のときあんなに小さくて弱かった男子生徒たち、1年生のときに県大会に出場できなかった女子生徒たちが、会場内の人たちからあたたかい盛大な拍手を送られているのを見て、涙が止まらなかったことを覚えています。そして、表彰式の際、競技部長を務めていた松村先生から、優勝旗を生徒が手渡されているのを見て、少しでも恩返しができたのではないかと考えています。

松浦先生

毎年出場している全日本少年少女武道(剣道)錬成大会です。十数年前 長女が5年生で出場した時、大会当日にプログラム表を確認したところ、一回戦で同じ越谷市の団体と対戦することになっておりました。全国から各団体が日本武道館に集結する大会なのに、まさかの越谷市対決。越谷市に縁を感じました。それから数年後、次女が小学6年生で出場した同じ大会のコート準決勝でも、越谷市の団体と対戦しました。この大会に出場するたび、越谷市対決を思い出します。

改めて、この10年を振り返ってみると、連盟加盟団体所属の選手が多く全国レベルの選手になってくれたこと、また、指導者となって貢献してくれたことは、第1回の埼玉県小学生剣道大会から加盟団体と連盟とが協力して始めた小学生の強化が今日まで続けられ、その経過とともに多くの選手が剣道を続け、活躍し、また、指導者として貢献してくれていることがこの10年の成果として感じられました。少子化で剣道人口も減少している中でどう取り組んでいくかを考えていかなくてもなりません、「裾野は広く、頂は高く」をスローガンに、更にこの先10年も皆で頑張っていこうと感じた次第です。ありがとうございました。

いきいき 女性剣士

剣道は、老若男女が長く続けられる武道です。
多様性の時代と言われる今、当連盟でいきいきと
剣道を実践する女性たちを紹介します

越谷市剣道連盟創立 70 周年に寄せて

越谷市剣道連盟 副会長 堀 川 智 子

越谷市剣道連盟 70 周年、誠におめでとうございます。創立よりこれまでご尽力いただきました先達の先生方、役員・会員など関係の皆様へ深く感謝申し上げます。

令和 2 年から感染が拡大した新型コロナウイルス感染症により、剣道界においても稽古の自粛や大会・審査会等の中止・延期を余儀なくされました。コロナ禍を経てようやく日常を取り戻しつつありますが、当たり前の生活や稽古ができる喜びを感じる日々です。

私が所属している越女武会は、女性の会員で組織され、来年 35 周年を迎えます。師範であられた鋪野猷爾先生は「仲良く協力し合い、切磋琢磨し向上心を持って精進しよう」と熱心に御指導くださいました。家事・育児・仕事の合間を縫って、こつこつ努力を重ねる仲間の姿にいつも励まされており、そうした今日があるのも、素晴らしい先生方、剣友の皆様との出会いがあったからだと思います。

技を磨き、
剣道を楽しむ



越女武会の皆さん(前列の左から3番目が筆者)



越女武会の皆さん(前列の左から2番目が筆者)

また、今年度埼玉県剣道連盟にも女子委員会が設置され、6月に「第1回彩の国女子稽古会～みんなで楽しく健やかに～」が開催されました。120名を超える一般女性が県内各地から集まり、久しぶりの再会を喜び合って、汗を流し、稽古後は笑顔に^{あふ}れていました。

全日本剣道連盟の剣道指導の心構えの「生涯剣道」には「ともに剣道を学び、安全・健康に留意しつつ、生涯にわたる人間形成の道を見出す指導に努める」とあり、「剣道は世代を超えて学び合う道である。技を通じて道を求め、社会の活力を高めながら、豊かな生命観を育み、文化としての剣道を実践していくことを目標とする」と示されています。

人生100年時代と言われる昨今、健康で生きがいをもって、張りのある生活を維持・充実させていくことは、個人・社会においても大きなテーマです。剣道の修行は、時には厳しく険しいものですが、各年代に合わせて適切に指導することによって、その価値は高まり、より豊かな人生を送ることにつながるのではないのでしょうか。怪我や健康を害しては長く続けることはできません。気力を充実させ、無駄な力を抜き、無理なく楽しく稽古することが大事だと思います。

これからも生涯剣道を大きな目標として、多くの剣友の皆様と朗らかに道を求めて精進して参りたいと思います。

健康で生きがいをもって、生涯剣道をめざす



推薦理事(桜南)

中西直子

このたびは、越谷市剣道連盟創立70周年を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。越谷という地は先の大戦後多くの剣道道場が廃止され、稽古をすることのできない時勢においてもなお、熱心に稽古を続けていた先人により剣道が盛んな土地になったといえます。鋪野猷爾先生は稽古のたびにこのエピソードをお話されておりました。越谷で生まれ育ち剣道に励んできた自分も幼い頃よりこの話を聞きながら育ってきた一人であります。

今回このような機会をいただき大変光栄に思っております。剣道において決して輝かしい実績や経歴はありませんが、剣道と越谷を愛する一人としてこの「剣士インタビュー」に答えさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

①将来の夢や今後のテーマ

生涯剣道 試合に出続けること

②自分を高めるための工夫

現在2児の母でありフルタイム勤務をしているため、自分のために時間をつくるのが難しく、残念ながら特別なことはしていませんが、健康管理と体力づくりだけには気を配っています。

食事はタンパク質多め、食物繊維、乳酸菌の摂取を心がけ、免疫力維持のため睡眠は一日7時間確保するようにしています。アルコールは適量に、タバコは体に合わず吸えません。企業検診の他、歯科、婦人科系検診を定期的に受け、疾病の早期発見予防に努めています。膝腰の傷病に備え隙間時間のストレッチと日

常生活の動作中、下肢筋と体幹筋を常に意識するようにしています。健康な身体でないと剣道が続けられません。精神的な健康のためには剣道をすることが一番です。リフレッシュの意味合いもありますが、剣の攻防には、その時の精神状態が如実に反映されるように感じます。不安定な時は攻めも不安定になります。相手の気力、自らの弱い気持ちに負けず精神を集中し、思い切り打ち込むことは、私にとって精神状態を調整する効果もあるようです。

③指導の際の留意点

剣道理念である「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」ということを常に念頭に置くべきだと考えます。

「礼に始まり礼に終わる」という言葉どおり、剣道では相手に敬意を持ち示すことが大切であるとされていますが、初心者の方や子どもに対して、相手に敬意をもって剣道をするということの理解はなかなか困難だと思います。大きな声でしっかりとあいさつをすること、返事をする、話を聞くときは相手の目を見ること、礼法・所作、相手に打ち込むこと、相手に打たせること、一生懸命稽古をすること、こうした基本的なことを繰り返し指導することが最も大切であり、その結果相手に対する「敬意」ということを理解することができるのだと思います。

④大会等の思い出

以前、全国都道府県対抗剣道大会において全日本女子剣道選手権を5回優勝されている村山千夏さんと埼玉県代表としてチームを組ませていただいたことがありました。大会までのコンディショニング、当日試合までの過ごし方などすべてにおいてプロ意識を感じさせられ、大変感銘を受けたことが印象に残っています。



越谷剣道クラブ

東原 茜
(旧姓 伯耆田)

越谷市剣道連盟が創立70周年という輝かしい節目を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。昭和の時代から剣道の普及と発展に尽力されてきた歴代の役員・指導者の皆様、そして越谷市の剣道の発展を支えてこられた多くの関係者のご努力に、深く敬意を表します。

このたび、剣士インタビューに投稿させていただくことで、日頃の稽古や試合を通じて考えていることや感じていることをお話できる貴重な機会をいただけたこと、感謝申し上げます。少しでも読者の皆様にとって、剣道の魅力などを感じていただける内容となれば幸いです。

①将来の夢や今後のテーマ

私は、小学1年の冬に剣道を始めました。始めたきっかけは、父の稽古しているビデオを見たことです。

望んで始めた剣道なので、少しでも長く剣道に携わるということがこれからの夢です。中学から大学までは勝ちにこだわり、日本を目指して剣道に打ち込んできました。

これからは、より多くの剣士の方々と剣を交えながら、“剣道って楽しい”と思いながら続けていくことが目標です。そして、剣道を通じて様々な年代の方と交友を深めていくことが今後のテーマです。

②自分を高めるための工夫

私が剣道を始めた当初は、自分にすごく自信がなくて、すぐ泣くような性格でした。そんな自分を変えたいと思って始めたのが剣道であったこともあり、「とにかく強くなりたい」という思いが強かったように思います。強く

なるためにはどうするか、自問自答を繰り返して稽古に打ち込むことでした。自分を変えたいと思うことが、自分を高める大きな力であったと思います。

③指導のポイント

私が指導する上で大切なことは2つあると思います。

1つ目は、「基本」を一番に大切にすることです。試合に勝つために必要な動きや技は、基本の軸がしっかりあってこそだと思います。すり足や踏み込み足、素振りのときの手の内や竹刀の太刀筋などを徹底的に体に覚えさせていくことが大切だと思います。

2つ目は、試合の機会を増やして、たくさんの経験値を積むことです。稽古の中で習った技をいかに実戦の場で使うか、どういう機会に技を出すべきなのか・・・など、稽古の中で終わらせず練習試合などで試すことで私は実際に自分の経験値を上げてきたと思います。稽古は稽古、試合は試合とならないように全てをリンクさせることが重要だと思います。

④大会の思い出

剣道を始めてすぐに越谷市の「越谷剣道クラブ」に所属し、同級生や先輩、後輩たちと切磋琢磨しながらひたすら剣道に打ち込んできました。

最初に出場した大会は越谷市民大会の基本の部でした。とても緊張しましたが、稽古で一生懸命にやってきたことを存分に出すことができ、優勝をつかむことができました。努力した分だけ結果につながることをその時実感しました。この優勝が私の原点です。

小学生のときから、越谷市の先生方に技術だけでなく、礼節などたくさんのご指導いただき、ここまで剣道を続けることができました。越谷市で剣道の稽古に励む子どもたちや諸先生方とこれからも剣を交えることができるように、自己研鑽を続けていきたいと思っています。

剣道具の歴史



理事
間所
義明

戦国時代が終わったことで、実戦的な日本刀の時代も終わりを告げました。その後、江戸時代から幕末にかけて、日本刀ではない木刀や竹刀による剣術が主流になります。現代剣道の前身である剣術の稽古には現在でいう木刀が用いられていました。

しかし木刀による打撃は一步間違えれば大怪我、死亡事故に繋がる恐れがあったため、安全な竹刀が江戸時代中期に考え出されました。

竹刀は武士の鍛練のために直心影流が「竹刀による打ち込み稽古法」を確立したことにより誕生しましたが、この「竹刀による打ち込み稽古法」が今の日本における剣道の源流になります。打ち込み稽古法が考案されると竹刀を用いて防具を付けて思い切り打ちあう稽古ができるようになりました。これにより剣術はより実戦向けになったのです。

その防具の原形となったのは戦国武将の使用した甲冑ですが、甲冑のような重すぎる装備では稽古に向かないので、軽量化された竹・皮製の防具が考案され、これが現在の剣道防具の原型になったといわれており、安全に剣道の稽古ができるようになりました。

面 攻撃から頭部を守る意味では兜から発想を得ていますが、後頭部の保護がないこと、肩への打突から守るための面垂れが肩まで長いこと、鋭い突きから喉元を守る突垂れなどは、兜に本来あった機能ではありません。また、現在の剣道では行いませんが、幕末期には接近戦になると、竹刀を放り出して面の剥がし合いになり、相手の面を剥がした方が勝ち、という試合方法もありました。

甲手 甲冑の小具足（こぐそく）としての籠手（こて）がモチーフとなり、剣道具として現代の「甲手」になりました。ちなみに、剣道での勝敗における一本の技能としては、「小手」と表します。剣道では甲手で竹刀を受けることは防御になりません。有効打突となれば、技として一本取られることになります。左右の甲手の形状に違いはなく、完全なシンメトリーになっていますが剣道での打突部位は右甲手のみです。

胴 剣道の胴は前面のみ防御をする形ですが、甲冑としての胴は、背後の防御も必要となっていました。胴は胸部分と胴台部分でできています。胸部分は硬い芯材を牛革等で覆った構造をしており、竹刀からの衝撃を受ける腹部・脇下部分（胴台）は、竹やプラスチックなどの丈夫な素材で作られています。竹製の胴台の場合は、牛革を張りしっかりと1枚につなぎ合わせ、漆で塗り固めた物を使っています。

剣道具名称



垂

垂は甲冑の草摺（くさずり）から来ています。草摺は胴の下に着ける武具で、大腿部を守る役割がありました。足元の草に擦るくらい長かったことからこの名前が付いています。刃の攻撃から完全に守るための武具であったため、大腿部全体を覆う武具だったのです。

剣道の垂は、胴を打ち損ねた竹刀の衝撃から身体を守る役割があるため、長さは草摺ほど長くはありません。竹刀で狙って打つ部位でもないため、そこまでの硬さも必要ありません。垂の素材は面布団と同じように木綿で固く作り上げています。大垂が3枚、小垂が2枚の合計5枚の防具です。足さばきに影響してきますから、動きやすくするために、5枚の部品が継ぎ合わせになっています。

私たちは、相手の打突から身を保護する用具を普通「防具」とっていますが、この「防具」という語は明治時代になって近代軍事用語の中で初めて使用され、それが大正時代になって剣道界でも用いられるようになったという経緯があります。江戸時代にはこの「防具」にあたる語としては、武具・具足・具などが用いられていましたが、昭和54年以降は「剣道具」が正式名称となっています。剣道具は安全性や機能性が重要であり、面金の物見の位置や顔に合った面、胴部の体型に適したさらには小手の筒部の長さや頭の大きさなどには留意することが大切です。

越谷市剣道連盟居合道部

まず、剣道に比べて一般に接する機会が少ない居合道についてお話しします。居合道は、剣道の立会いに対応するもので、古来から抜刀術、鞘の内、利法、座合、抜剣など様々な名称で存在していたものです。不意の敵に対し

間を置かず、敵に乗ずるすきを与えず勝ちを得る剣技とされており、各剣術の流派にそれぞれ存在していたものです。勝負を抜刀の一瞬にかけ、死生一如をめざす心身鍛錬の道であり、剣の理法の修練により人間形成を目指す剣道と共に車輪の両輪の関係にあります

居合の起源は、各流派に存在した抜刀術を戦国時代の武士、林崎甚助重信が体系化し武道として確立したものとされ、山形県村山市に「日本一社林崎居合神社」が現存しています。

居合道は、剣道と共に明治時代の廃刀令、大東亜戦争後のGHQによる武道の禁止等、存続の危機に面しながらも先師の努力により連綿と受け継がれてきたものであり、昭和31年には、全日本剣道連盟に居合道部が設置されました。

越谷市においては、昭和40年ころ大吉地区において、吉田賢隆先生、故大塚史郎先生、故白鳥鼎次郎先生が中心となり、居合道昭和興の師といわれる、故中山博道先生の内弟子であった故長本寿三先生(剣道、居合道、杖道)の指導を受けて始まったものです。

越谷市剣道連盟居合道部は、故長本先生の流れを汲み、夢想神伝流の稽古を行っており、清浄院吉田賢隆先生のご厚意により週3回、清浄院幼稚園体育館を借用して稽古を続けております。

稽古は原則として日本刀の真剣を使用しますが、初心者は、危険防止のため木刀、模擬刀を使用しています。仮想の敵を想定しての稽古であり、相手が実在するわけではありません。したがって老若男女の区別なく稽古をすることができます。武士は、刀の操法を心得なければならないと剣術よりも居合の稽古に力点を置いたと記された書物も残っているほどです。

居合道部の稽古は、それぞれの修練目標、体調、技量等により各々の状況に合わせて行われます。また、独りよがりの稽古にならぬよう互いに意見を交わすとともに揃い抜きにより高段者の持っている間や間合いを習得できるように考慮されています。まさに生涯学習の典型ともいえるものです。

現在、修業を続けている会員は、小学生から80代の高齢者までの20余名で、それぞれが稽古に励みさらなる向上を目指しています。

50年誌が発行されてからも県大会、支部対抗大会では、個人での優勝を含む上位入賞、団体戦においても3位以上の入賞、また審査会においては六段以上の高段者を多く輩出しています。

(文責 深田 芳昭)





越谷市剣道連盟の取組み

- 年間行事
- 連盟創立 7 0 周年記念事業
- 大会紹介
- 稽古会
- 級審査

剣道連盟の取組み

剣道連盟では、越谷市における剣道（居合道を含む。以下剣道という。）の普及啓発を図り、剣道の理念を究明し、もって市民の人間形成に資するとともに、併せて 体力の向上及び健康の増進に寄与することを目的に、各種事業を展開しています。

令和7年度 越谷市剣道連盟 年間行事

連盟主催稽古会			令和7年4月から令和8年3月までの土曜・日曜・祝日 9 時 30 分から 11 時 30 分 武道場 又は地域スポーツセンター		
月	日	曜日	行事名	場所	利用時間帯
4	26	土	定期総会	中央市民会館	午後7時～
	27	日	第1回級審査会/第 20 回全日本都道府県少年大会予選会	地域スポーツセンター	午前・午後
5	18	日	第 11 回東部地区対抗剣道大会	草加市民体育館	
7	5	土	前日準備	総合体育館武道場	夜間
	6	日	連盟創立 70 周年記念 第 48 越谷市小学生剣道 兼 第 23 回埼玉県剣道大会(小学生の部)代表選手選考会	総合体育館武道場	午前・午後
	12	土	全日本少年都道府県大会埼玉県予選	地域スポーツセンター	
	13	日	夏期錬成会(暑中稽古)	総合体育館武道場	9:30～16:00
	19	土	夏期錬成会(暑中稽古)	地域スポーツセンター	
	26	土	夏期錬成会(暑中稽古)	地域スポーツセンター	
	27	日	夏期錬成会(暑中稽古)	地域スポーツセンター	
8	2	土	連盟創立 70 周年記念 優勝胴大会	地域スポーツセンター	
	11	月・祝	東部地区稽古会	地域スポーツセンター	9:00～13:00
	31	日	第 2 回級審査会/第 23 回埼玉県剣道大会(小学生の部)最終選考会	総合体育館武道場	午前・午後
10	11	土	前日準備	総合体育館	夜間
	12	日	初段から三段審査会	総合体育館	午前・午後
11	2	日	第 23 回埼玉県剣道大会(小学生の部)	県立武道館	
	23	日	前日準備	総合体育館武道場	夜間
	24	月	連盟創立 70 周年記念 第 70 回市民剣道大会	総合体育館武道場	終日
12	21	日	第 3 回級審査会	総合体育館武道場	終日
	31	火	年越稽古会	清浄院体育館	23 時 10 分～0 時 30 分
1	1	水・祝	年越稽古会	清浄院体育館	9:30～16:00
	10	土	冬期錬成会(寒稽古)	総合体育館武道場	
	11	日	冬期錬成会(寒稽古)	総合体育館武道場	
	12	月・祝	冬期錬成会(寒稽古)	総合体育館武道場	
	17	土	冬期錬成会(寒稽古)	総合体育館武道場	
	18	日	冬期錬成会(寒稽古)	総合体育館武道場	
	24	土	冬期錬成会(寒稽古)	地域スポーツセンター	
2	1	日	四役会議	総合体育館会議室	
	22	日	連盟創立 70 周年記念 中学 46 回 高校 44 回 越谷市冬期剣道大会	総合体育館武道場	午前・午後
3	1	日	常任理事・理事会	サンシティー会議室	午前
			連盟創立 70 周年記念祝賀会	サンシティーホール	午後

連盟創立70周年記念事業

越谷市剣道連盟は、令和7年（2025年）に創立70周年を迎え、この節目に当連盟では、各種事業を展開します。

事業の実施体制としては、連盟創立70周年記念行事実行員会を組織し、事業を推進しています。事業概要は次のとおりです。

組織及び事業概要

●委員長 小川 俊文（副会長） ○副委員長 高瀬 英治（副会長）

大会部会（中野 聡 部会長）

創立70周年記念大会を開催する（次ページを参照）

記念誌部会（大橋 一男 部会長）

記念誌の企画、編集、発行。記念誌は広く関係者に配布するとともにホームページから閲覧できるようにする

祝賀会部会（五十嵐 治 部会長）

70周年の節目を、広く祝うとともに連盟に対する功労者を顕彰する。祝賀会は、3月1日（会場はサンシティを予定）

記念品部会（永松 富士恵 部会長）

記念品の制作及び配布。功労者に対する顕彰の記念品も制作。

総務会計（石川 雅久 事務局長）

各部会の調整、会計事務

これからの連盟運営には、 会員相互の協力がいっそう必要

Message 事務局からメッセージ

会長 石川 雅久

私は、この10年間連盟事務局長として会員の皆様のご協力のもとやってきました。正直に言って、自分の仕事が忙しいときは、いつも「何で、こんなことをしているのだろう」と思い、そこでの答えは、いつも「剣道をここまでさせてくれたからだ」と自問自答していました。この10年で連盟は大きな組織となり、公益財団法人埼玉県剣道連盟のAランクの加盟団体として、事務処理の合理化も図られましたが、事務量としては多くなりました。そんな現状から将来に向けて愛好者の組織運営はどうすればいいかを考える時期です。

そこで、会員として認識を持っていただきたいのは、剣道は一人ではできないということです。審査を受ける、大会に出る、稽古ができる、全てにおいて人がそれに対して動くということです。こうした認識を会員一人一人にもっていただければ、よりスムーズにことが進むように思います。剣道を通じていろいろな知識と経験がある方が会員として集まり、それぞれの目標を持って、楽しく剣道を続けていけるように今後の連盟発展のためにご協力をお願いします。

連盟創立 70 周年記念大会

令和 7 年度の大会については、「連盟創立 70 周年記念」の冠をつけた記念大会とします。
また、これを契機に一部参加条件等を変更しています。

●連盟創立 70 周年記念第 48 回越谷市小学生剣道大会（大猷旗・越谷ユネスコ協会杯）第 23 回埼玉県剣道大会（小学生の部）代表選手選考会

種目

- （１）基本試合の部（四級以下）－学年別試合
- （２）個人試合の部－学年別試合
- （３）団体試合（トナメント）－２ チーム以内、１ チーム 5 人編成（学年制限なし）

●連盟創立 70 周年記念令和 7 年度夏期錬成会・越谷市剣道優勝胴大会

種目

小学生 低学年の部・中学年の部・高学年の部

中学生 男子の部・女子の部

高校生 男子の部・女子の部

●連盟創立 70 周年記念第 70 回越谷市市民体育祭剣道大会（豊田旗・大塚旗・玉猷杯）。

種目

- （１）団体試合・・・①男子団体（５人制）②女子団体（３人制）
- （２）個人試合・・・①一般男子・豊田旗争奪戦（大学生含む）
②一般女子・玉猷杯争奪戦（大学生含む）
③一般 50 歳以上の部・大塚杯争奪戦
④一般 60 歳以上の部・玉猷杯争奪戦

※参加団体で、男子個人試合と団体試合を 3 名兼ねることができる。女子個人試合の部に出場する女子は、女子団体を兼ねることもできる。

※個人試合③・④は、男女共に出場できる。

※年齢基準は、大会当日とする。

- （３）立合の部・・・女子は五段以上、男子は七段以上、65 歳の方段位を問わない。

※高校生男女の部は冬期大会になりました。

●連盟創立 70 周年記念第 46 回中学校・第 44 回高等学校 越谷市冬期剣道大会

種目

- 個人戦 ①中学生男子の部
- ②中学生女子の部
- ③高校生男子の部
- ④高校生女子の部

●越谷市剣道連盟が主催する大会を紹介



【趣旨】 児童の剣道に対する興味・関心と技術の向上を図り、併せて剣道愛好者相互の親睦を深める。

【種目】

- (1) 基本試合の部（四級以下）－学年別試合
- (2) 個人試合の部－学年別試合
- (3) 団体試合（トナメント）－2 チーム以内、1 チーム5人編成（学年制限なし）



越谷市小学生剣道大会

（大猷旗・越谷ユネスコ協会杯）兼埼玉県剣道大会（小学生の部）代表選手選考会

多くの子どもたちの剣道に対する興味や関心を高め、技術の向上につなげるための大会です。また、埼玉県剣道大会(小学生の部)代表を選考する大会でもあります。



夏期錬成会・越谷市剣道優勝胴大会

大会前に行われる夏期錬成会(暑中稽古)の出席優秀者により、小学生、中学生、高校生の部門別に猛暑の中、錬磨した技を存分に発揮し優勝胴を争奪する大会となっています。



【趣旨】 剣道を通じて心身ともに健全な生活を営み、青少年への正しい剣道の普及発展を図ることを目的にして開催するものである。

【種目】

- (1) 小学生 低学年の部・中学年の部・高学年の部
- (2) 中学生 男子の部・女子の部
- (3) 高校生 男子の部・女子の部



越谷市民体育祭剣道大会

(豊田旗・大塚杯・玉猷杯)

市内で行われる最高レベルの大会で、高校生以上男女別の個人戦、男女団体戦に 1 年間の成果を発揮する良い機会となる大会であり、年齢、職域も多彩で活気に満ちた剣道の祭典となっています。

【趣旨】 市民が剣道を通じて心身ともに健全な生活を営み、市民意識の高揚並びに剣道の正しい普及発展を図ることを目的として開催するものである。

【種目】

(1) 団体試合

①男子団体（5人制） ②女子団体（3人制）

(2) 個人戦

①高校生男子の部

②高校生女子の部

③一般の部・豊田旗争奪戦（大学生含む）

④一般女子・玉猷杯争奪戦（大学生含む）

⑤一般 50 歳以上の部・大塚杯争奪戦

⑥一般 60 歳以上の部・玉猷杯争奪戦





〔趣旨〕 剣道を通し、中学校・高等学校各剣道部相互の親睦を図り、心身とともに健康な生徒を育成する。

〔種目〕

団体戦（3人制）

- ①中学生男子の部 ②中学生女子の部
- ③高校生男子の部 ④高校生女子の部

中学校・高等学校越谷市冬期剣道大会

中学生にとっては市内に優秀な高校剣道部が多数あることがわかり、じかに現役高校生と触れ合う機会となっています。高校にとっても剣道部をPRする良い機会となっています。

稽古会

連盟主催稽古会

越谷市立総合体育館武道場・地域スポーツセンターで不定期ですが土曜日、日曜日に行っています。開催日は、剣道連盟のホームページでご確認ください。

越谷市立総合体育館武道場の稽古は日本剣道形から始まり、準備体操、素振り、基本稽古を行い、それから地稽古（互角稽古、元立ち稽古）で約2時間行っています。

地域スポーツセンターの稽古は準備体操、素振り、地稽古（互角稽古、元立ち稽古）で約1時間行っています。（令和5年度定期総会資料を参考に記載）

夏期錬成会

剣道を通じて心身ともに健全な生活を営み、青少年への正しい剣道の普及発展を図ることを目的にして開催するものである。（令和5年度定期総会資料より）

年越し稽古会

清浄院体育館で12月31日23時から1月1日0時30分の1時間半の間行っています。

寒稽古

剣道を通じて心身ともに健全な生活を営み、青少年への正しい剣道の普及発展を図ることを目的にして開催するものである。（令和5年度定期総会資料より）

級審査

級審査は例年 3 回行われます。また、審査内容は次のとおりです。

第 1 回級審査会（4 月）、第 2 回級審査会（8 月）、第 3 回級審査会（12 月）

審査内容の紹介（一級、二級、三級は剣道具着用、四級、五級は剣道具なし（剣道着・袴））

一級(2 組で実施)

- ①切り返し（1 人目のみ）
- ②稽古（2 回）
- ③「木刀による剣道基本技稽古法」 基本 1 から基本 9、「掛かり手」と「元立ち」
- ④「日本剣道形」 太刀 1 本目～3 本目、「打太刀」と「仕太刀」どちらか一方

二級(3 組で実施)

- ①切り返し
- ②稽古
- ③「木刀による剣道基本技稽古法」 基本 1 から基本 6、「掛かり手」と「元立ち」

三級(3 組で実施)

- ①自然体
- ②中段の構え
- ③正面打ち込み（連続 4 回）
- ④小手→面二段打ち込み（連続 4 回）
- ⑤小手→面→胴三段の打ち込み（連続 4 回）
- ⑥「木刀による剣道基本技稽古法」 基本 1 から基本 4、「掛かり手」と「元立ち」

四級(3 組で実施)

- ①自然体
- ②中段の構え
- ③正面素振り（10 回）
- ④小手・面・胴の三段打ちでの素振り（2 回）
- ⑤正面打ち（4 回）
- ⑥正面の打ち込み（連続 4 回）

五級(3 組で実施)

- ①足はこび（3 回） 前、後、右、左
- ②前進後退の素振り（10 回）
- ③正面打ち（4 回）

[関連情報]

●東部地区

東部地区対抗剣道大会（5月）

講習会（3月）

稽古会（8月）

●四地区（北・南・東・西）

四地区講習会（令和6年は、4月、7月、10月、1月）

●埼玉県関連

全日本都道府県少年大会予選会（4月）

埼玉県剣道大会（一般の部）（11月）

埼玉県剣道大会（小学生の部）最終選考会（8月）

埼玉県剣道大会（小学生の部）（10月）

段審査

初段～三段（令和6年は、6月、10月、2月、高校8月、1月）

四段～五段（令和6年は、7月、11月、3月）

剣道・居合道・杖道称号推薦認定会（令和6年は9月、3月）

●剣道連盟事務局からのお願い●

<級・段審査申し込みについて>

- 1) 申し込みは必ず申し込み用紙に必要事項を記入して申し込みをお願いいたします。
- 2) 他県で昇段審査を受けた場合、所属が受審した県になっています。埼玉県剣道連盟と当連盟への加入が必要になりますので申し込み時に事務局へ連絡をお願いします。
- 3) 再審査は実技審査に合格し、形や筆記試験に不合格になった場合に申し込む審査です。審査2回目ではありませんので間違わないようにお願いいたします。

<会費について>

団体に所属していても三段以上（高校生は除く）は個人加入をしてください。

剣道をやりたいと思ったら

連絡先は、各加盟団体のホームページ、または越谷市剣道連盟ホームページからご確認ください。

桜南剣友会		
火・土曜、18時30分～21時、桜井南小／木曜、18時30分～21時、越谷北高校	剣道の理念に基づき、お互いに切磋琢磨し、これに勤め、青少年の心身とも健全なる育成を図ることを目的とする	
大相模剣道クラブ		
木曜、19時～20時／土曜、18時30分～20時／日曜、8時30分～10時。いずれも大相模小	一般、少年、少女剣士の育成	
大袋剣友会		
月曜、18時30分～20時、大袋中学校武道場。水、土曜、18時～20時、大袋小学校体育館	最初に礼式(お父さん、お母さんや先生方に対する礼)を学び、剣の基本では竹刀を剣と見立て刃筋を通して、手の内(竹刀を持つ手の握り方及び構え方)、姿勢、気合、体捌きなどを指導します。防具付けでは剣を学び心身を鍛えます	
けんぶかん 虔武館		
月(毎週)・金曜(随時)、19時～21時、越谷西中	武道としての剣道の実践を通じ生涯剣道を目指す、老若男女を問わず実践者の育成、日本剣道形も重視	
げんとくかん 源徳館		
木曜、18時30～20時30分、明正小／土曜、17時～20時30分、大相模中／希望者は月曜も可能	剣道・先哲の語録の朗読、礼儀を重視した徳育としての剣道の実践、幼稚園児から高齢者まで男女を問わず育成 剣道着・袴・剣道具等は500円で貸与	
蒲生剣道クラブ		
土曜、14時～16時、蒲生小	内と外の体力強化	
越谷高德館		
月・木曜、18時30分～、明正小・南中	礼徳求道、剣道を通じて礼儀正しい健全な子供を育てます。 (子どもから大人まで是非どうぞ)	

越谷剣心会		
月・金曜、草加新田小、南部交流会館、越谷南中	礼儀正しく、楽しくをモットー！	なし
越谷剣道クラブ		
木・土曜、19時から、総合体育館	基本の習得、体力の向上を楽しく	
越女武会		
月・木曜、9時30分～11時30分、総合体育館	日本剣道形や基本稽古・指導稽古など、初心者から高段者、また、若年から高齢者等と幅広い年齢層の女性を中心とした稽古会	なし
清浄院剣道教室		
火・金曜、18時～21時、新方小学校体育館(1,2年生19時30分まで)／土曜、16時～17時30分、清浄院幼稚園体育館(1,2年生17時30分まで)	自分に負けない心を育て、礼儀を身につける。 初めまして！清浄院剣道教室です！！ 稽古はつらいこともあるけれど、剣士たちが剣道続ける理由は、剣道が楽しいから。 支え合い、高め合う仲間がいる。支えてくれる先生がいる。見守ってくれる保護者がいる。 剣士たちみんなが新しい仲間を待っています。 始めるのに遅いということはありません！ 少しでも気になったら見学・体験してみませんか？	
実明館剣道場		
木・日曜、実明館剣道場	正しい基本に徹し、技や試合の末に走らない	
清龍館		
月・水・土曜、19時～21時、越谷中央中剣道場／木曜、19時～21時、越谷東中剣道場	基本を大事に指導し、皆で生涯剣道を目指しています。また、不撓不屈の精神で、どんな困難にも乗り越えられる精神力を剣道を通じて育てていきたいと思っています。	
千間台剣士会		
火曜 金曜、(金曜は希望者のみ)、千間台小	竹刀の握り方、構え方、足捌き等の基本動作を重視した稽古を行っています。 金曜日の稽古に関しましては希望者のみ受け付けています。	なし

出羽剣友会		
土・日曜・祝日、午前中、出羽小	剣道による地域青少年の健全育成と生涯学習	
白桜剣友会		
土曜、17 時～19 時／日曜、8 時 30 分～10 時 30 分。桜井小	礼儀をつくし、先輩後輩のわきまを教える剣道における基本を徹底的に指導する	
南越谷剣友会		
水・土曜日、富士中学校／日曜日、南越谷小学校	「剣道を通じて、児童及び青少年等の心身を練磨すること」を目的として、子供から大人まで、厳しい中にも楽しく、和気あいあいと稽古に励んでいます。	
武蔵館		
月・水・金曜、18 時 30 分～20 時 30 分、弥栄小体育館／土・日曜、9 時～12 時、弥栄小体育館、総合体育館武道場	「今日を頑張れ」の旗の下、剣道を通じて”魂の利いた人間”を育てるのが目標。剣道の技法はもとより、礼法や作法の指導にも力を入れ、道場で学んだことを日常生活に生かせる「居住まいの正しい子」の育成を目指しています。	
越ヶ谷高等学校剣道部 OB 会		
奇数月の第2土曜、15 時～17 時、越ヶ谷高校剣道場	越ヶ谷高等学校剣道部 OB 相互の交流と親睦を図り、剣道部の発展のために現役生への支援を行っています。	
友心館剣道		
月曜、19時30分～、北陽中／水曜、19時30分、平方中／土曜、17 時～、平方小／日曜、8 時 30 分～、平方小	剣道を通じて、友と互いに稽古に励み、心身を鍛える。	
越谷北高剣道部北剣会 ほっけんかい		
毎週水曜、19 時～20 時 45 分 ただし、学校行事の都合により休会あり。越谷北高校格技場	越谷北高の卒業生を中心に活動・運営していますが、だれでも自由に参加できる「開かれた稽古会」です。小中高大一般の区別なく参加できます。事前に申し込む必要なく、剣道をやりたい人は、いつでも歓迎します。是非、北剣会へ！	なし

心身錬成道場大義塾		
稽古日 週 3 時間まで、曜日時間応相談 大義塾道場	神影流を基本とした剣道を指導しています。真剣を使用した居合道も指導しています。基本的に個人指導となりますので問い合わせ願います。	
剣峰館道場		
【剣道】日曜、18 時～20 時 30 分、(土曜日 出稽古) 【居合道】水曜、19 時 30 分～21 時 30 分、土曜日、日曜日、16 時～18 時(但し、祝祭日に当たる場合は休み)	(幼稚園から小学校の年少者) 剣道、居合道を通して躰と挨拶のできる人、善、悪が分かり正しいことをはっきり大きな声で言えること、親に感謝すること、姿勢が正しくなること (中学生、高校生) 心身の鍛錬と独立心旺盛で決断力、忍耐力、不屈の精神を養う (大学、一般高齢者) 不撓不屈の精神、社会での独立心と健康な体とストレス解消で働く 意欲と楽しくお付き合いでき、明日に希望を持てる人	
越谷市剣道連盟居合道部		
月・火曜、19 時 30 分～21 時、清浄院 体育館／金曜、19 時 30 分～21 時。大相模中学校 剣道場	居合道部の稽古では、それぞれの修練目標、体調、技量等により各々の状況に合わせて行われます。 現在は、小学生から 80 代の高齢者までの 20 余名が稽古に励んでいます。	

*加盟団体の情報は、越谷市剣道連盟ホームページからも確認できます。



友好団体

栃木銀行剣道部		
毎週土曜 8 時～9 時、栃木県立宇都宮南高校 武道場	栃木銀行は栃木県内と越谷市を中心に地域の皆様に支えられ運営しています。 越谷市内に 6 店舗、春日部市・吉川市・松伏町他で地域経済の成長に貢献し共に発展していけるようお客様の課題解決に努めています。 当行剣道部においては現在 15 名程で活動しており、各々が地元道場に所属し日々稽古に励んでいます。	なし

高等学校

埼玉県立越谷東高等学校剣道部

毎週木曜日トレーニング、他は稽古または練習試合。 土日どちらかオフ 本校剣道場	地元、越谷の選手が多く地域連携と交流を目指し、正しい剣道を実践しています。また、高校から剣道を始め剣道二段を取得した選手もいます。	
---	---	---

埼玉県立越ヶ谷高等学校剣道部

週3～4日程度 (月水金土)。越ヶ谷高校剣道場	学業と部活動の ON と OFF の切り替えを大切にしている。各自の目標と毎月のチームテーマを重視し、稽古内容は主に部員が決める。自主自律的な活動を推進し、成長する自分すなわち「未見の我(部訓)」を追求する。	
----------------------------	--	---

埼玉県立越谷西高等学校剣道部

平日 16 時～18 時 休日 9 時～12 時 他校での合同稽古・練習試合あり 1F 剣道場	公式戦での勝利を目指して、日々稽古に励んでいます。練習量がすごく多いわけではありません。平日も土日にも休みあります。部員みんなで和気あいあいと稽古しています。中学生の皆さんには、高校生になってもぜひ剣道を続けてもらいたいです。未経験者の入部も大歓迎です。	
--	---	---

埼玉県立越谷北高等学校剣道部

週、平日 4 日、休日 1 日 以上を原則とするが、大会前は変更あり 越谷北高校格技場	「唯一心」を部訓とし、「文武両道」を常に活動しています。 全国、関東大会への出場を目指して、精進し稽古に励んでいます。中学生での経験者はもちろん、高校から始める初心者も大歓迎です。 全国大会出場 女子団体・女子個人 関東大会出場 男子団体・女子団体	なし
---	---	----

埼玉県立越谷南高等学校剣道部

平日火曜～金曜日、 土曜・日曜日のいずれか。 越谷南高校格技場2階	普段の稽古から、「何のために行うのか」を常に頭に置きながら、短時間で集中して稽古に取り組んでいます。令和3年度東部支部大会では個人戦で準優勝した選手がいる一方で、高校から剣道を始めた初心者も一緒に活動しています。勉強と部活を高いレベルで両立できるよう、日々頑張っています。	
---	--	---

埼玉県立越谷総合技術高等学校

基本週 3 日(月・水・金曜)、越谷総合技術高校剣道場。	学業との両立を図りながら、①剣道の基本的な技術の習得と向上、②剣道に求められる体力の向上を目標に練習に励んでいます。	なし
------------------------------	--	----

中学校

越谷市立北中学校剣道部		
平日 月・火・木・金 休日 土 (練習試合等) 越谷市立北中学校武道場	越谷市立北中学校剣道部は「乾坤一擲」を部訓として、地区大会優勝、県大会ベスト8・上位進出、関東大会出場を目指して日々稽古に取り組んでいます。 中学生から始めた生徒も多く、全員で切磋琢磨して頑張っています。 稽古内容は足さばき、タイヤ打ち、基本打ち、仕掛け技、応じ技、引き技、パターン練習、試合練習等です。 土日は練習試合が多く、週に1回程度トレーニングを行っています。	
越谷市立大相模中学校剣道部		
平日(火～金) 休日(土) 大相模中学校 剣道場	生徒の主体性を大切にしながら、活動を通して協調性や責任感を育む。 稽古時間は2～3時間程度で、練習試合なども行っています。	
越谷市立新栄中学校剣道部		
平日:2～4日 休日:土・日どちらか 練習試合、合同稽古を行うこともあります。 新栄中武道場	初心者でも楽しく稽古できる環境づくりを心がけています。県大会出場を目標にしています。	
越谷市立南中学校剣道部		
平日4日程度 土・日どちらかまたは練習試合等 南中学校体育館	基本を中心に技術向上に努め、稽古に取り組んでいます。 稽古時間は2～3時間程度、合同稽古や練習試合等で校外での活動を行うこともあります。	
越谷市立西中学校剣道部		
平日 3～4 土日はどちらか学校 練習または出稽古 西中武道場	基礎基本の技能の習得を目指しています。素振り、足さばき、基本打ち、応じ技、掛かり稽古の順で 2, 3 時間程度、練習しています。	なし
越谷市立東中学校剣道部		
平日 週3～4日 休日 土曜 東中剣道場	東中学校は、県大会出場を目標に活動しております。また、剣道を通じて礼儀や人間性を育てます。	

越谷市立武蔵野中学校剣道部		
平日3～4日 土・日曜 どちらかまたは練習試合等 武蔵野中体育館	礼儀作法を学び、大会では県大会出場・上位入賞を目標に活動しています。 時期によって稽古時間は変わりますが、2～3時間程度行っています。 剣道未経験の人でも一生懸命活動に取り組んでいます。	なし
越谷市立中央中学校剣道部		
平日 4 日＋土曜、中央中学校武道場	本校剣道部は、「剣道を通しての人間形成」を目的とし、その重点課題を「あいさつ、返事がしっかりとでき、規律ある部活動」としています。稽古は準備体操、素振り、基本稽古を行い、それから地稽古（互角稽古、元立ち稽古）で約2時間程度行っています。	なし

越谷市剣道連盟ホームページ紹介

コンテンツ	内 容	サイト
MENU	大会・審査・講習会等の申し込み案内や稽古日の決定、総会の日時や連絡事項などを掲載します。 以下の各項目の更新情報の連絡もリンク付きで掲載します。	
新着情報	各種大会の結果や四段からの昇段審査合格者の情報が掲載されます。	
稽古日	連盟主催稽古会の日時と稽古場所を掲載します。 会場予約の関係で直近4ヵ月くらいを掲載しています。	
年間行事	毎年 4 月の総会で承認された年間行事予定を掲載しています。	
役員紹介	現在の役員を紹介しています。	
審査申込書	級審査・段審査・高段者講習会申込書が入手できます。	
剣道連盟加入申し込み方法	越谷市剣道連盟の加入申し込み方法を掲載しています。	

結びに

70周年記念事業を 剣道文化伝承の一助に



越谷市剣道連盟創立70周年
記念行事実行委員会
副委員長 高瀬 英治

記念事業に関しては、70周年の1年前となる令和6年度の連盟総会において実行委員会を設置。多彩な人材の知識の集約による効果を期待し、できるだけ多くの会員の手によって、その準備にあたることとなりました。実行委員長には50周年で記念誌作製に当たった小川副会長、副委員長には同じく高瀬が選任されました。

実行委員会は、・記念誌部会・大会部会・祝賀会部会・記念品部会の4部会に分け、部会ごとに企画立案から運営までを担当し、実行委員長、副委員長が統括する組織とし、各部の委員は実行委員長と副委員長で検討し推薦させていただきました。運営費に関しては、周年事業予算として過去数年間にわたって準備してきた資金を充てることが承認されました。

周年事業の目的は、その節目の年にそれまでの活動実績を踏まえ、記録と記憶に残すことに集約されるといえるでしょう。記念誌はその時代を生きてきた人にとっては、思い出の一つに過ぎないかもしれませんが、後世の人々にとっては非常に貴重な資料となるものなのです。大会も周年記念大会とし、記念品などを配布することで、参加する特に小中学生、高校生には強く記憶に残ることが期待されます。それらは直接的ではないにしろ、必ずや剣道人の使命である剣道文化伝承の一助となるはずです。社会体育団体の周年行事は、利益を目的とする企業のそれとは違い、運営の当事者以外には、とかく軽視される傾向も感じられますが、実に意義あるものなのです。都会では、隣人の顔もよくわからないという時代になったと言われて久しくなりました。当剣道連盟も市内で活動する多くの団体（道場、剣友会など）が加盟していますが、数年間のコロナ禍の影響によって、連盟主催稽古会の機会が減っていたこともあり、会話を交わしたことのない会員同士が増えてきているのではないのでしょうか。70周年行事運営に携わることが、他団体に属する会員との友好を深める機会ともなれば幸いです。

2024 年 4 月 27 日より越谷市剣道連盟 70 周年記念行事の 70 周年記念誌部会が活動を開始しました。記念誌では剣道連盟の 70 周年を祝し、剣道の歴史、文化、そして未来への展望を紹介することで、①剣道に興味を持ってもらう ②越谷市剣道連盟について知ってもらう ③剣道を始めたいときに情報が得られるということをコンセプトに、最近急速に進化している AI（ChatGPT）なども活用しながら検討を行いました。



また、「特別記念企画」として剣道を修業している者の夢である「剣道八段」への道へ少しでも近づけるヒントとなるようなアドバイスを著名な先生からいただくこととしました。この記念誌を読んでもいただくことで、明日からの修行の質を高め、より多くの方の夢の実現に寄与できればと願っています。

寄稿は 2024 年にいただき記念誌に編集させていただきました。寄稿いただきました皆さん、ありがとうございました。

記念誌部会一同

【参考文献】

60 年記念誌 越谷市体育協会

創立 50 周年記念誌 越谷市剣道連盟

越谷市剣道連盟ホームページ

躍進の 70 年

剣道連盟の歴史と未来

越谷市剣道連盟 創立70周年記念誌



発行日 令和7年(2025年)7月6日



編集/発行 越谷市剣道連盟



越谷市剣道連盟